

た。

昭和十六年、戦時体制が教育にも及び、同年四月一日付小学校令を改めて国民学校となった。これが終戦後の昭和二十二年に再び小学校の名称に戻ることになる。

この小学校の発達に沿って、小学校卒業後の農村に残る人々の教育も考えられ、明治三十五年実業補習学校令が発布、大正元年にはこれが荒井・館の内農業補習学校となった。

しかし軍縮などの国際事情が、この末端教育にも波及してきて、大正十五年七月一日に青年訓練所なるものが開設され、昭和九年十月には、補習学校青年訓練所の専用校舎を建築するまでになった。これが翌十年七月一日からの青年学校となって、他の教科を逐次圧縮し、教練を主とするように、もりあげられてくることになった。これは昭和二十年の敗戦により、完全に終末を告げた観がある。

2、川南村小学校の発達 川南村でも明治五年の学制発布によって発足しているが、荒井村より一足早く、同年十一月元十六区長小川広次が、下小松の常徳寺を借りて小学校を始めている。その名称は今特に聞いていない。これは同九年八月三十日同村の旧米倉を改装して移転、古館小学校と名づけている。同十一年上荒井新田と上米塚が分離して、特に上米塚小学校を設置した。しかし十九年には小学校令の改正にもなつて、古館・上米塚の二校が再び合併、小松に古館尋常小学校として発足、翌二十年小学校を改築した。これが現在の小松にある小学校の前身で、やはり古い館跡を整地しているのは下荒井と似ている。ただ上荒井新田・上米塚・麻島の三村はあまりに児童通学に遠いからと、一、二年上荒井新田と麻島に仮教室を設けていたことがある。

明治二十六年学校教育令の改正によって川南尋常小学校となり、二十九年三カ年の高等科併置、三十六年これを四カ年に改めた。四十一年改築校舎を全面新築し、小学校令の改正により同年尋常科六年、高等科二年の